

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 実用新案公報(Y 2)

(11)実用新案出願公告番号

実公平6-13106

(24) (44)公告日 平成6年(1994)4月6日

(51)Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 43/16 25/06	1 0 2	6540-3E 6540-3E		

(全 3 頁)

(21)出願番号	実願昭62-108818	(71)出願人	999999999 株式会社タチエス 東京都昭島市松原町3丁目2番12号
(22)出願日	昭和62年(1987)7月15日	(72)考案者	田口 勝美 東京都昭島市松原町3丁目2番12号 株式 会社タチエス内
(65)公開番号	実開平1-14660	(74)代理人	弁理士 山田 治彌
(43)公開日	平成1年(1989)1月25日		審査官 新海 栄

(54)【考案の名称】 箱

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】箱本体と、

その箱本体の開口を開閉する蓋と、
その箱本体の側壁の内側壁面から外側壁面に貼り付けら
れるループ・ニット製表皮と、
先端をその蓋から伸長させてその蓋に固定的に結合さ
れ、かつ、その先端に固定的に結合されてその表皮に取り
外し可能に結合される面ファスナを有するフレキシブル・ヒンジ
とを含む箱。

【考案の詳細な説明】

産業上の利用分野・関連出願

この考案は、蓋がフレキシブル・ヒンジの部分で箱本体
から取り外し可能になる箱に関する。

背景技術および目的・課題

2

この種の箱では、そのフレキシブル・ヒンジが無数の小
さなフック付きストリップおよび無数の小さなループ付
きストリップからなり、そのストリップの一方を箱本体
に、そのストリップの他方を蓋にそれぞれ貼り付け、そ
の蓋をその箱本体に開閉可能に連結するので、その蓋が
開かれたとき、その蓋の重さでその他方のストリップが
その一方のストリップから離れ、その蓋がその箱本体か
ら取り外される不具合があった。

そこで、この考案の目的・課題は、常態では、ヒンジが
蓋を箱本体に確実に結合し、必要な場合、そのヒンジ箇
所で、その蓋がその箱本体から取り外し可能になる箱の
提供にある。

具体例の説明

以下、図面に示された具体例に基づいて、この考案の箱
を説明するに、第1および第2図は、この考案の箱の具

10

体例10を示し、この箱10では、箱本体11が、長方形に製作され、また、蓋12が、長方形に製作されてその箱本体11の開口23を開閉し、さらに、ループ・ニット製表皮13が、その箱本体11の側壁17の内側壁面21から外側壁面22に貼り付けられ、またさらに、フレキシブル・ヒンジ14、14が、先端25、25をその蓋12から伸長させてその蓋12に固定的に結合され、かつ、その先端25、25に固定的に係合されてその表皮13に取り外し可能に結合された面ファスナ15、15を有している。

特に、その表皮13は、その箱本体11の内側面全体に貼り付けられ、また、その面ファスナ15、15は、無数の小さなフック付きストリップを適宜の長さに切断したもので、そのフレキシブル・ヒンジ14、14に縫い付けられている。

また、この箱10において、16は、底壁、18は、側壁、19、20は端壁、そして、24は、取手である。したがって、その蓋12は、その面ファスナ15、15をその側壁17に結合してその箱本体11に取り付けられ、開かれた場合にも、そのフレキシブル・ヒンジ14、14の先端25、25がその面ファスナ15、15に縫い付けられているので、その箱本体11から外れずに開閉動作が確かなる。

また、必要な場合には、その面ファスナ15、15をその表皮13から剥離すれば、その蓋12はその箱本体11から簡単に取り外され、例えば、箱詰作業を簡にする。

第3および4図は、この考案の箱に使用される他の箱本体30を示し、この箱本体30では、底壁31および側壁32、33が、予め組み立てられ、また、ループ・ニット製表皮36が、その底壁31および側壁32、33の内側面からその側壁32、33の外側面に貼り付けられ、さらに、端壁34、35が予め下端面および両側端面に面ファスナ（図示せず）をそれぞれ貼り付けて、その面ファスナと表皮37とによりその組み立てられた底壁31および側壁32、33に取り付けられる。

したがって、この箱本体30は、機械で製作が可能になる。

第5図は、この考案の箱に使用されるさらに他の箱本体40を示し、この箱本体40では、底壁41、側壁42、43および端壁44、45が、長方形に組み立てられ、また、ループ・ニット製表皮46が、その組み立て

*られた底壁41、側壁42、43および端壁44、45の内側面に貼り付けられ、さらに、仕切り板47が、予め下端面、および側端面に面ファスナ（図示せず）をそれぞれ貼り付けている。

したがって、その仕切り板47は、その面ファスナをその表皮46に結合すれば、その底壁41、側壁42、43および端壁44、45からなる長方形組立て体の内部に固定的に取り付けられる。そのような取付け構造になるその仕切り板47は、その組立て体の内部において、自由に位置を変えて配置可能になるので、箱の中が有効に使用可能になる。

考案の利便・利益

この考案によれば、ループ・ニット製表皮が、箱本体の側壁の内側壁面から外側壁面に貼り付けられ、そして、フレキシブル・ヒンジが、先端を蓋から伸長させてその蓋に固定的に結合され、かつ、先端に固定的に結合されてその表皮に取り外し可能に結合される面ファスナを有するので、常態では、蓋が箱本体に確実にヒンジ連結され、その蓋の開閉動作が確実、かつ、円滑に行なわれ、必要な場合、その蓋が、ヒンジ連結箇所での箱本体から取り外し可能になり、また、その箱本体が機械で組み立て可能になり、製作が非常に簡単で、実用的になる。

考案と具体例との関係

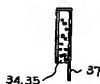
先のように、図面を参照しながら説明されたこの考案の具体例からして、この考案の属する技術の分野における通常の知識を有する者にとって、種々の設計的修正や変更は容易に行われることであり、さらには、この考案の内容が、その考案の課題を遂行ならしめる考案の成立に必須であり、その考案の性質であるその考案の技術の本質に由来し、そして、それを内蔵させると客観的に認められる態様に容易に置き換えられる。

【図面の簡単な説明】

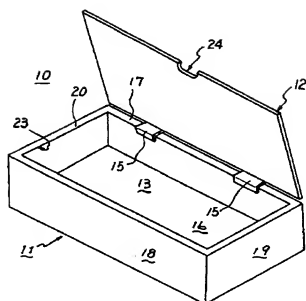
第1図は、この考案の箱の斜視図、第2図は第1図に示す箱の部分断面図、第3図は、この考案の箱に使用される他の箱本体の部分分解斜視図、第4図は、第3図に示す箱本体に使用された端壁の断面図、および第5図は、この考案の箱に使用されるさらに他の箱本体の斜視図である。

11、30、40…箱本体、12…蓋、13…ループ・ニット製表皮、14…フレキシブル・ヒンジ、15…面ファスナ。

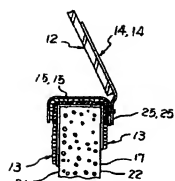
【第4図】



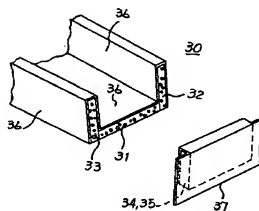
【第1図】



【第2図】



【第3図】



【第5図】

